

マイクロバブル技術でエコ洗浄

羽黒高 ボトルキャップ9万7000個寄贈

鶴岡市の羽黒高校（牧静雄校長、生徒854人）の生徒会（遠藤あかり会長）は29日、全校で集めた約9



万7000個のペットボトルキャップを山形銀行鶴岡支店（鈴木洋史支店長）に寄贈した。キャップは開発

マイクロバブル技術を使い、きれいにしたキャップを清水課長（左）に遠藤会長（右）が贈った

途上国の子供たち113人分のポリオワクチン費用に役立てられる。

同校では学校挙げてごみの分別強化に取り組んでいて、生徒会は分別されたキャップを回収するごみにも生徒にも家庭からの持ち込みを呼び掛け。今回の寄贈は2014年10月以来で、洗浄や選別を終えた重さにして225.8キロ、ビニール袋30袋分を贈ることになった。

生徒会のメンバーたちは、放課後などを利用して1つつつシールを剥がしたり、洗浄作業は微細気泡が汚れやごみなどを引き付け

る「マイクロバブル」技術を活用して合宿所の浴槽できれいにした。

この日は校長室で贈呈式が行われ、同支店個人課の清水課長ら3人が訪れ、遠藤会長と生徒会のメンバー4人がキャップの入った袋を手渡した。清水課長は「皆さんの活動は人の命を救う意味あるもの。捨てればごみだが、社会に役立つ活動をぜひ続けて」と話した。

国際ボランティアに興味があるという遠藤会長は「シールを剥がすのが大変だった。地味な作業だが終わってみれば達成感があった。マイクロバブル技術を使ったので洗剤も減らしてきれいにできたので、エコになったかなと思う」と話していた。